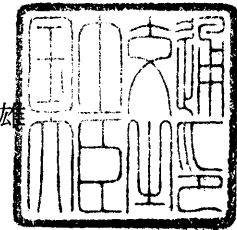


認 定 書

国住指第 596 号
平成 18 年 7 月 6 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060FL-0315

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

ケーブル/ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん
/床耐火構造/貫通部分(中空床を除く)

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添のとおり

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ケーブル／ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん／床耐火構造
 ／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 矩形 (面積) 0.6 m ² 以下(1200 以下×500 以下)
占積率 (断面積)	20.58%以下 (0.123450 m ² 以下)
貫通する床の構造等	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) A L C ・床厚 100 以上 (2) コンクリート ・床厚 100 以上

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位 : mm)

項 目		申 請 構 造		
電 線 管 な し	ケ ー ブ ル	総発熱量	5,450,126kJ/m 以下	
		総導体断面積	0.018192m ² 以下	
		規格	光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号準拠, 第 4364 号準拠, 第 5381 号準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号準拠, 第 9072 号準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号	
		外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径 : 85 以下
			光ファイバケーブル	より合わせ外径 : 47 以下
		導体断面積	光ファイバケーブル以外	325mm ² /本以下
			光ファイバケーブル	125mm ² /本以下
		本数	総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下	
		導体種類	(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)銅 (2)アルミニウム (3)ガラス繊維(光ファイバケーブル)	
		絶縁体	(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)塩化ビニル系樹脂 (3)ゴム系樹脂	
シース	(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)塩化ビニル系樹脂 (3)ゴム系樹脂			

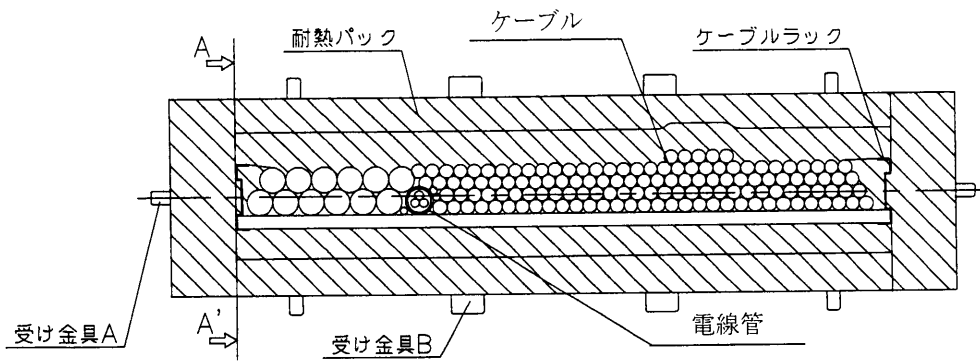
項 目		申 請 構 造		
電線管あり	電線管	規格	JIS C 8411	
		外径	42.0 以下	
		厚さ	2.0 以下	
		本数	各ケーブルの発熱量を除いた発熱量を各電線管の発熱量で除した数以下かつケーブルラックの1ラック内に1段以下	
		材質	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)ポリ塩化ビニル系樹脂	
	電線管内ケーブル	規格	光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号 準拠, 第 4364 号 準拠, 第 5381 号 準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号 準拠, 第 9072 号 準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号	
		外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径：30 以下
			光ファイバケーブル	より合わせ外径：30 以下
		導体断面積	光ファイバケーブル以外	38mm ² /本以下
			光ファイバケーブル	38mm ² /本以下
本数		総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下		
導体種類		(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)銅 (2)アルミニウム (3)ガラス繊維(光ファイバケーブル)		
絶縁体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)塩化ビニル系樹脂 (3)ゴム系樹脂			
シース	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)塩化ビニル系樹脂 (3)ゴム系樹脂			

項 目		申 請 構 造		
防火措置材料	ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール(以下、耐熱パック)	熱膨張性充てん材	材質	熱膨張性ロックウール
			組成(質量%)	
			厚さ	3 以上
			幅	75 以上
			密度	42g/m 以上
		長さ	1000 以下	
		耐熱性充てん材	材質	ロックウール
			厚さ	19 以上
			幅	75 以上
			密度	60kg/m ³ 以上
	梱包紙	材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリオレフィン系不織布 (2)ポリオレフィン系樹脂 (3)ポリアミド系樹脂 (4)ポリ塩化ビニル系樹脂	
		厚さ	0.55 以下	
	ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール(以下、補助パット)	熱膨張性充てん材	材質	熱膨張性ロックウール
			組成(質量%)	
			厚さ	3 以上
			幅	75 以上
			密度	42g/m 以上
		長さ	1000 以下	
		梱包紙	材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリオレフィン系不織布 (2)ポリオレフィン系樹脂 (3)ポリアミド系樹脂 (4)ポリ塩化ビニル系樹脂
			厚さ	0.55 以下
床用ネット		材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリオレフィン系不織布 (2)ポリオレフィン系樹脂 (3)ポリアミド系樹脂 (4)ポリ塩化ビニル系樹脂	
		長さ	1200 以下	
	幅	500 以下		
	密度	130 g/m ² 以下		

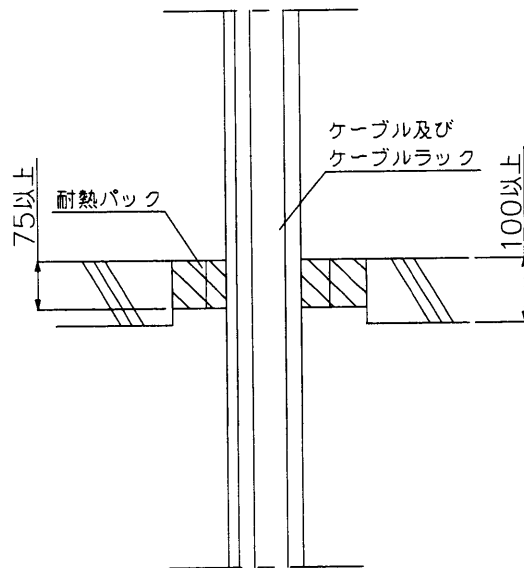
項 目		申 請 構 造	
防火措置材料	ケーブルラック	材質	(1)～(9)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3)クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4)ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5)熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6)冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7)溶融亜鉛めっき鋼板にメラミン系樹脂焼付塗装を施したもの (8)熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (9)冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
		厚さ	1.2 以上
		幅	1000 以下
	受け金具 A	材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3)クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4)ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5)熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6)冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7)熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (8)冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
		厚さ	1.0 以上
		材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3)クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4)ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5)熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6)冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7)熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (8)冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
	受け金具 B	厚さ	1.0 以上
		間隔	310 以下

4. 構造説明図

(寸法単位 : mm)



平面図



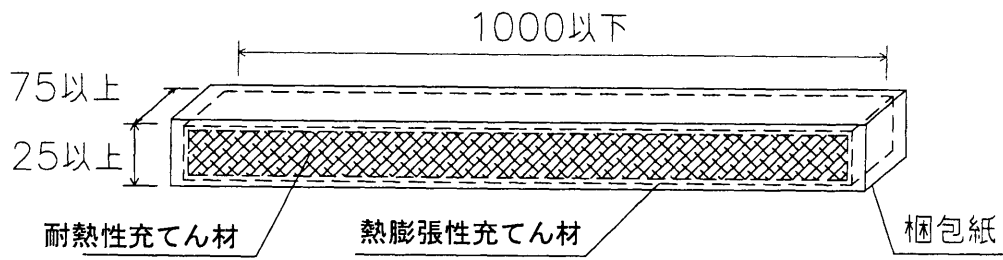
A-A' 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

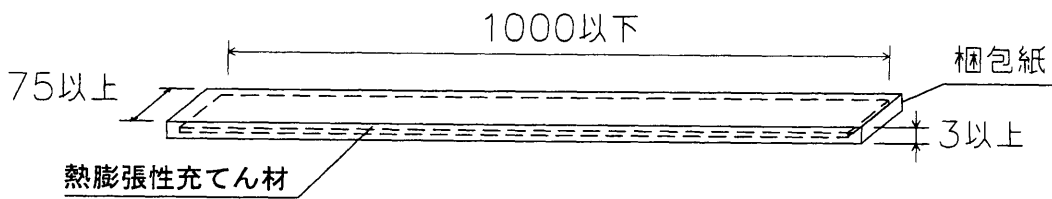
(別添-6)

<耐熱パットの詳細構造図>

(寸法単位：mm)

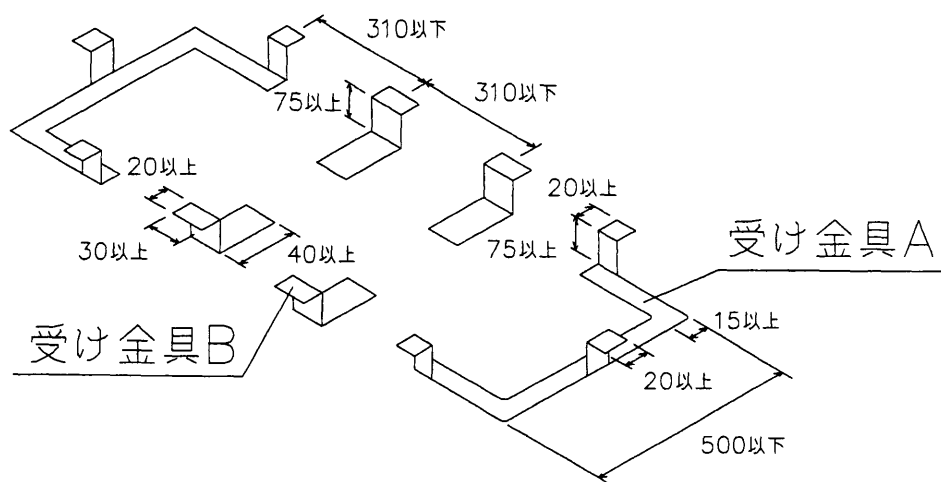


<補助パットの詳細構造図>



※) 補助パットは隙間にあわせて、必要長さにカットして使用する。

<受け金具A, Bの詳細構造図>



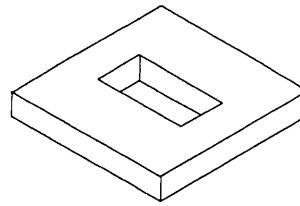
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

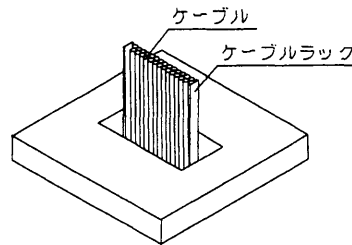
① 開口部の確認

開口面積、壁厚及び占積率等が申請仕様に適合しているかどうかを確認する。



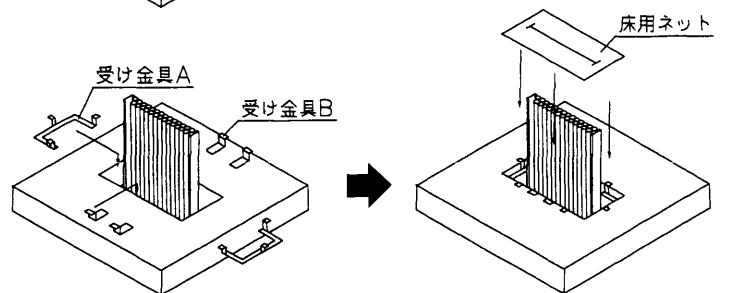
② ケーブルラックの設置及びケーブルの配線の

ケーブルラックを設置した後、ケーブルラックにケーブルを配線（通線）する。



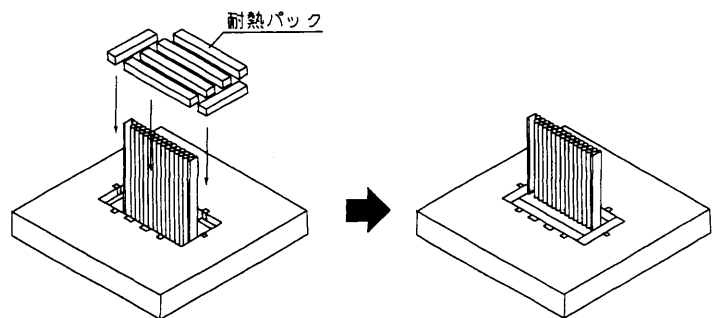
③ 金具及び床用ネットの挿入

耐熱パック脱落防止用金具を開口部内に挿入する。金具は金具のつばを床面に固定する。床用ネットに切れ目をいれたのち、脱落防止用金具の上に敷く。



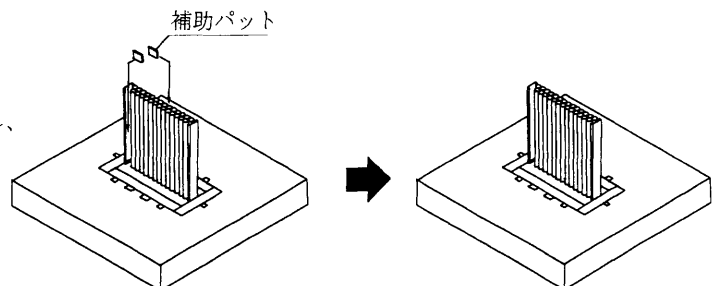
④ 耐熱パックの充てん

耐熱パックを隙間のないように押圧してなじませながらケーブル周囲及び開口部内に充てんする。



⑤ 小さい隙間の充てん

耐熱パックが隙間なく充てんされていることを確認し、小さい隙間が認められる場合には、補助パットを挿入し、仕上げる。



6. 注意事項

本構造に使用する耐熱パック及び補助パットについては、耐久性に留意し、所定の耐火上の性能が維持されるよう適切な処理を行う必要がある。